

科学者の警告、欧州の再エネ戦略は森林を破壊し、気候変動を増長する！

イギリスの有力紙「タイムズ」と「ガーディアン」やフランスの通信社 AFP も、また有力なフリージャーナリストたちも、世界の主要な科学者たちが「ヨーロッパの再生可能エネルギー戦略は、森林を破壊し気候変動を増長している。」と、警告を発していることについて、同時に報道している。以下、9月14日付けの Josh Gabbatiss, Science Correspondent, The Times の記事を紹介します。



地球温暖化の象徴的な極地の氷の割れ目を見つめるペンギンたち (The TimesHP から)

科学者たちは、世界の森林がヨーロッパのエネルギー需要に追いつくために伐採されなければならないと警告している。(AFP/Getty) 主要な科学者たちは、木材を再生可能なエネルギー源とする EU の決定を非難した。彼らは、この動きが、ヨーロッパの温室効果ガス排出量の増加と、世界で最も古い森林を残していると言われているポーランドの古代森林は既に伐採が始まり荒廃が進んでいるにもかかわらず、ヨーロッパの国々は、科学者たちの助言に反して、木材を低炭素燃料とみなすことを既に決めている、といら立ちを表している。

2030年までに、ヨーロッパの再生可能エネルギー利用を倍増させると言う、この行動の背後にある考え方は、伐採された森林の置き換えのために、新しい樹木を植えることができるということである。しかし、Nature Communications (ロンドン、ニューヨーク、上海に編集拠点を持つオンライン限定の学術的ジャーナル) に掲載された論文では、科学者た

ちは、この論理は欠陥と見なされるものであると、論評している。

伐採された木を燃やすと大気中に多くの CO₂ が放出される。放出された CO₂ を新しい樹木が吸収するのに何十年もかかることは明らかである。科学者たちは、木材が燃料として広く使用され、ヨーロッパのエネルギー需要を満たすために世界中の多くの森林が伐採されるようになると、温室効果ガスの排出量は、最大 10% 増加すると推定している。

ヨーロッパの国々は燃料のために木を伐採することを、他の国々に奨励している。森林大国のブラジルやインドネシアは、既に木材をさらに燃やして気候変動に取り組むと約束している。

米国スタンフォード大学の研究者で紙の権威者の一人である Eric Lambin 教授は、「木材を炭素中性燃料として扱うことが、世界中の森林利用、エネルギーシステム、木材貿易、生物多様性に、複雑なカスケード効果をもたらす単純な政策決定である。」と述べている。

ドイツのポツダム気候変動研究機関の Wolfgang Lucht 教授は、「植林し育った木を伐採し、エネルギーのために燃やす行為は、木の成長にあまりにも長い年月がかかるため、まったく意味をなさない。」と述べている。

これに対応して、ベルギーの Bioenergy Europe 貿易協会の Jean-Marc Jossart 氏は、「バイオエネルギーは EU やその他の地域で森林減少の原因ではなく、また他の場所では森林破壊の原因でもない」と述べ、「バイオエネルギー消費は 2000 年以降倍増しており、”木の交換率は急速だ”。」と述べている。また、「ヨーロッパの森林における炭素ストックは、持続可能な林業管理と植林プログラムのおかげで増え続けている。最も重要なことに、ヨーロッパの豊富な森林は多くの産業に資源を提供し、エネルギーのみが目的ではない。」と、彼は付け加えている。

それでも、科学者たちは、EU が環境への脅威の少ない他の再生可能エネルギーシステムに投資する力を持っているにも関わらず、なぜ木材の燃焼に焦点を当てているのか疑問を呈している。

カリフォルニア大学バークレー校の Dan Kammen 博士は、「木材を収穫することによるバイオエネルギーと比較して、太陽光と風力から得られるエネルギーは、土地利用効率とコスト削減に大きな利点がある。」と述べている。

一方、英国の科学者たちは、「森林が貴重な炭素吸収源としての役割を果たすために、国

の森林計画によって植林を進捗させることは、国の温室効果ガス削減目標を達成する手段の一つである。」と、述べている。

「新しい森林は、大気から大量の CO2 を除去する最も簡単な技術の 1 つと考えられており、これは、国際パリ気候協定によって設定された、より野心的な目標が達成される場合に、不可欠な戦略である。」と述べる科学者もいるのも事実である。

欧州を襲った今年の熱波は、気候変動によってもたらされる脅威と、それがヨーロッパ大陸全域に及ぼす影響となり、多くの人々を目覚めさせている。

ベルギーの Louvain 大学の Jean-Pascal van Ypersele 教授は、「EU 市民は、今年の夏、地球温暖化の影響を再び経験した。」、また「この反生産的政策は、森林破壊と炭素排出を増加させ、何十年も何世紀にも夏が暑くなるだけである。」と述べている。

この様な、多くの世界の科学者たちのコメントに、森林大国である日本の科学者の名前が出てこないが、これは世界レベルでの日本の木質バイオマス燃料としてのシェアが、あまりにも小さいので、問題外なのかどうか判らないが、気になるところである。

しかしながら、世界の科学者たちからの警告は、K-BETS の活動の根幹を揺るがす聞き捨てにならない話だ遠みます。次回の技術情報検討会、熱エネルギー研や林業研での活発な議論を期待しています。(了)